

早稲田大学 教育学部 化学 講評

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	大問数が前年度は6題であったが、今年度は5題であった。また、記述の解答形式であったところが、記述式とマーク式である。毎年の論述問題よりも、今年度はデータに関する思考問題の出題であるため、解答に苦戦した受験生もいたのではないだろうか。しかし、高校教科書や資料集にて基本的な内容をしっかりと学習していた受験生にとっては、最後まで解答できたはずである。こういった点を踏まえて、難易度は前年度に比べて、やや難化したと判断できる。

〔大問別講評〕

番号	出題内容・コメント
I	アルミニウムの製錬と結晶格子に関する出題である。一般的な出題である。日々の演習ができていれば、十分に解答できたはずである。
II	窒素に関する出題である。気体に関する基本的な知識が備わっていれば、問3のような出題には対処できたはずである。問4はハーバー・ボッシュ法に関する出題としては、よくある内容である。ひと通りの演習ができていれば、難しくはなかったであろう。
III	地球大気に関する出題である。地球温暖化と二酸化炭素量の関係についての出題があるが、一般的な気体の溶解度に関する知識があれば、問題の内容から十分に解答ができたはずである。
IV	有機化学の出題である。高校教科書でよく見かける有機反応である。一般的な知識があれば、十分に解答できたはずである。
V	エステルに関する出題である。問5、問6ではATPに関する問題であるが、問5は図をよく見れば解答できたはずであるが、問6については苦戦したのもいたと思うが、ヌクレオチドがRNAに取り込まれたことがわかれば良い。